

平成31年度版 改善計画

学校名：山梨高等学校

No.	項目	現状と課題	H32年度に目指すべき状態	①H31年度に実施する内容 ②H32年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	・会議の省力化が図れてきたが、まだ多くの時間を連絡事項に割いている。 ・連絡事項は文書回覧やグレープウェアの連絡欄を使用するように進める。	・HiusePC上の掲示板の導入や電子メール、サーバーの利用など資料提供方法を見直し、一層の効率化が推進され、生徒及び職員にゆとりが生まれる。	①資料の事前配付を進め、連絡事項は極力避け、ポイントを絞った議論をする。資料に会議終了予定時刻を記入することで時間意識を高める。会議の8割を業務時間内に終える。 ②教員相互のコミュニケーションを図りつつ、形式的な会議を縮減し、適切な教育活動が日常化される職場の実現。	A
2	学校行事の負担軽減	・行事の目的や意義を吟味し、効果的効率的に行事が行えるよう企画と運営の改善を進めたが、検討の余地はある。	・教育方針や在校生の状況やニーズに沿って、適切な学校行事が十分な準備のもと、全職員の協力体制で効果的に実施される。	①在校生の実態に合わせて、行事の精選が進められ、全職員が協力して意欲的に運営できる行事の実現が一層図られる。 ②すべての職員が意欲的に取り組むことができ、ゆとりある学校行事の企画運営の推進	A
3	校内組織の見直し	・30年度に各係の業務内容と取組体制の改善を進め、業務の適正化を図った。	・業務内容の見直しと精選を進め、スリムで効率的な組織体制の確立を図る。	①さらに分掌や業務の点検を行い改善点を探る。 ②組織再編を含めた実際の組織の更なる構築の推進	B
4	業務の効率化	・形式的な業務の繰り返しも多少あり、抜本的な業務見直しの余地がある。 ・PC及び情報システムの一層の活用を進める。	・短、中期的な業務の見通しの設定を進め、職員の主体的判断の下、効率的な業務取組ができる。	①校内サーバーの効果的な運用を図る。月2回の「きずなの日」を設定し、生徒への指導等に当たるとともに職員のゆとりある勤務の確立を図る。 ②積極的な情報機器の活用とそのセキュリティの構築	A
5	部活動の負担軽減	・部員数の多寡の状況を把握し、生徒の部活動に対するニーズを的確に捉えて適切な活動計画を立案するとともに、本校における適切な部の設置状況を検討する必要がある。	・生徒の希望と意欲に沿った活発な部活動の設置と指導体制が一層整えられている。 ・複数顧問配置と外部指導者活用による適切な指導体制が実現されている。	①適切な部休日の設定(週あたり2日、シーズン調整を含む)と参加大会の精選をすすめ、生徒及び職員の健康管理への取組を徹底させる。 ②生徒数、職員数をふまえた適切な設置部数の検討、部活動の活発化と、より有効な資本投下の可能性の検討	A
6	地域人材の活用	・キャリア教育、総合的な学習の時間、土曜課外などを中心に、外部講師や外部指導者を招聘し、協力を得ている。	・多様な人材を活用して、本校の特性が高められ、職員の負担軽減がなされるとともに、諸活動において生徒、保護者の満足度がより高められる。	①外部人材を招いた諸活動の成果について適切な評価を行い、生徒らのニーズ、職員の業務効率化の観点もあわせて課題を明らかにしていく。 ②特色ある「開かれた学校」の実現に向けての方策	A
7	PTA活動の効率化	・H30に規約改正と組織改革を行い運営実態に合わせた体制作りに取り組んだ。 ・会合内容を精査し、回数を削減した。	・生徒の学習活動と学校生活を支え、望ましい成長を促すような保護者の協力体制が確立されている。	①「開かれた学校」の整備に努め、保護者の参加及び理解協力が適切に得られるような環境を整える。 ②すべての保護者に理解され、協力が得られる学校の確立	A
8	休暇の積極的取得 時間外勤務の縮減	・職員同士が相互に支援しながら年次有給休暇、特別休暇を取得しやすい職場環境づくりに努めている。	・やむを得ず勤務時間外行事が設定される場合は適切に勤務の振替ができ、日常的に必要な休暇が取得できるような職場の実現がなされている。	①更なる年次有給休暇の計画的取得の推進、出退勤記録による各職員の勤務改善を促進するとともに、平日の残留と休日業務の現状把握を行い、面接等による指導を実施する。 ②恒常的な残留者、休日勤務者の勤務状況改善の促進	B

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村（組合）教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

※様式は、必要な項目が含まれていれば、適宜、変更して使用して差し支えないこと。